

事業所名 おおさ苑グループホーム
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年11月27日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A: 現職 社会福祉法人生活指導員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B: 現職 デイサービスセンター管理者
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法トレーナー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>地元コミュニティとの連携を大切にして入居者の社会参加と交流を進め、ホームを地元福祉のセンターとしても活用し、入居者の社会参加と自立を促している。</p> <p>「優しさや温かさに溢れた、心やむくもりのある生活」をモットーに、入居者・家族のニーズを反映した個別の介護計画を作っている。家庭的で愛情あふれる環境の中、慣れ親しんだ家庭生活の継続に努め、入居者が必要とする適切なサービスを提供することを目標としている。</p> <p>職員は、入居者の人格と人権を尊重し、入居者の今を大切にしたり暮らしを支援している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>集団の中でも自分の好きな位置・場所が見つけれよう、共用空間には間隔を置いて椅子や畳のコーナーがある。ガラス戸を開けるとテラスに出ることもでき、のんびりと一人で過ごせる空間作りをしている。</p> <p>様々なサービスは、併設している特別養護老人ホーム・デイサービスと一緒に受けられ、利用者と一緒に交流をしてホーム生活の中に安らぎと落ち着きを与えている。</p> <p>家族には、細かな情報も提供して信頼関係の構築を図っている。家族を含めた馴染みの関係を作り、入居者が居心地の良い生活が送れるように努力している。また、入居者それぞれが役割を持ち、積極的に参加してもらうことで孤独にならないように努めている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人であることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

ホームは、ハングライダー・バラグライダーが有名な東北中山間地、大佐地区の高台に位置している。ホームの周りの環境も素晴らしい、谷間を見下ろす眺めは絶景である。

母体法人は、東北では福祉施設経営の専ら分けてあり、高齢者介護にも長い経験がある。福祉スタッフも充実しており、蓄積された経験に基づいてホーム運営に取り組み、人間愛と専任の精神でケアを行っている。

地域住民との連携と活動を重要視しており、地域との交流・一体性を図って地元の在宅福祉の中心として地域に大きく貢献している。地元の信頼は厚く、施設の車や交流室を地域の催し(映画会等)にも積極的に提供している。

月1回の法人全体の職員会議では、課題を定めて勉強会を実施している。職員が資格取得する場合には費用を負担し、出勤扱いにして職員の向上意欲を支援している。ホーム内の自主評価を年2回実施し、介護サービスの改善を図っている。

コンピューターをホームの管理・運営に活用しており、入居者個々の情報を職員全員で共有して円滑なホーム運営を図っている。合理的・系統的な運営で、入居者個々に適した介護を行っている。

2ユニットは渡り廊下でつながっており、それぞれに特徴がある。和室・洋室がバランスよく配置されており、冷暖房完備で各入居者の体調に合わせて独立した生活ができる。

特に改善の余地があると思われる点(記述)
特に改善点として指摘すべき箇所は見当たらない。

引き続き、地域との連携をより深めて地域福祉の中核となり、また、地域との協働により認知症介護の専門施設として邁進していかれることを期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>入居者の生活歴・バックグラウンド・潜在能力・価値観等をよく理解し、作業・生活リハビリ・趣味活動に活かし、活性化したホーム生活が営めるよう取り組んでいる。</p> <p>入居者と職員が助け合いながら生きていくことをモットーに、手軽に家事等の作業に手が出せるように努め、なるべく自分で出来ることはしてもらいながら共同生活が送れるように支援している。</p> <p>個人情報保護規程を設け、玄関の入口にその指針を張り出している。入居者個人に関する書類は事務所に鍵を掛けて保管し、家族・知人等の面会簿は個別にする等、入居者個人のプライバシー保護に留意している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>自主評価を年2回行い、外部研修は必ず報告書を提出して情報を共有し、職員のケア意識の向上に努めている。外部研修・講習会参加の費用は法人が負担し、出勤扱いとして職員の積極的な向上意欲を支援している。</p> <p>申し送り等情報伝達を徹底し、夜勤マニュアル・清掃マニュアル等各種マニュアルを設け、業務の確実性と安定、自然な介護を目標に努力している。</p> <p>職員の精神的安定が良い介護の基本であると考え、職員が安心して働ける環境を作り、手厚い福利厚生制度を設けている。</p> <p>玄関に意見箱・記入用紙等を置き、気軽に家族が意見や苦情を伝えられるようにしている。</p> <p>トラブル、事故を未然に察知し、防止するように努力している。玄関は施錠しておらず、閉鎖時に風鈴が鳴るようにして平常の安全には留意している。</p> <p>些細な事故やヒヤリハットを含め、事故報告書に因果関係と対応結果を記録し、全職員に回覧して情報を共有し、再発防止を図っている。ハザードシステムが設けてあり、速やかに適切な処置が取れるように個々の事故を想定したマニュアルを作り、緊急時に対応出来るように努めている。</p>		